

### 佐久間ダムの土砂対策

#### 工法案を委員に説明

松 委  
浜 検

浜松市天竜区の佐久間ダムに流入する土砂の処理工法を検討する委員会の第2回会合が

19日、同市中区のホテルで開かれた。事務局を担う国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所の担当者が、

などの面で評価した案を示した。

堆砂対策量の検討では、委員から「計算上の数値と土砂掘削量などの実現可能性について、より綿密にすり合わせを行うべき」などの意見が上がった。

対策は天竜川ダム再編事業の一環。今後は委員の意見などを参考に、詳細設計を進める。

静岡新聞社編集局調査部許諾済み

# 専用トンネルが優位

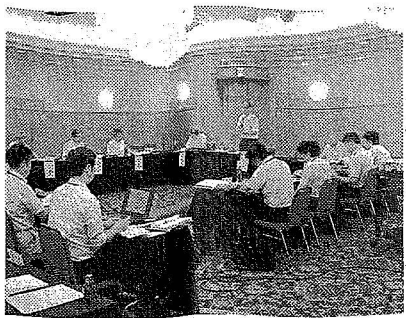
## 天竜川ダム 恒久堆砂対策 浚渫土砂運搬手法

整備局

中部地方整備局浜松河川国道事務所が設置する天竜川ダム再編事業恒久堆砂対策工法検討委員会(委員長・角哲也京大教授)は19日、浜松市内で第2回会合を開き、写真、浚渫土砂の運搬手法などについて議論した。ストックヤードへの運搬方法を比較検討した結果、ダンプトラックよりもベルトコンベヤー(専用トンネル)が優位と判断した。

検討委は、天竜川河口から約70キロに位置する発電専用の流水で下流に土砂を還元する「ダム直下・ストックヤード」工法を採用する。

今回は、事務局を務める同事務所から対策工法の工程ごとに設備の機能や配置、構成の検討状況の説明を受けた。あらかじめ選定していたダム至近の揚砂場へはバックホウ(油圧ショベル)、グラブ付きクレーン、リクレーマ船の中から、リクレーマ船による揚砂が妥当とした。



その後のストックヤードへの運搬方法は、ダンプよりもベルトコンベヤーが優位と判断。「トンネルの終端位置」と「ストックヤード内の土砂運搬方法」との組み合わせによる長さ1280-1500

メートルの3つのトンネル(レール式)案を比較検討した。  
3案とも幅・高さ2・8メートルの幌型、内空断面7平方メートル、縦断勾配5%未満で設定。その結果、終端位置をヤードの中心とし、ヤード内では重機で任意の位置に運搬する長さ1500メートルの案が最良と総合的に評価した。  
2017年2月下旬の第3回会合で全体概略設計などを審議。同年8月の第4回会合で詳細設計の条件などを話し合っ予定だ。

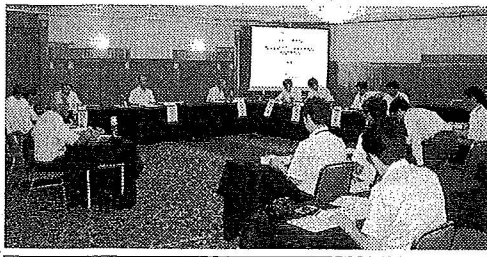
この記事・写真は日刊建設通信新聞社の許諾を得て掲載しています。

# 複数案比較し運搬方法確認

## 佐久間ダム恒久堆砂工法

中部整備局委  
中検 部 討

中部地方整備局浜松河川国道事務所は19日、第2回天竜川ダム再編事業恒久堆砂対策工法検討委員会(委員長・角哲也京大教授)を浜松市内のホテルで開いた。写真。対策工法ごとに実施した複



数案の基本設計を比較検討し、浚渫・掘削土砂の

揚砂場への運搬は土運搬船が妥当、揚砂場からストックヤードへの運搬方法はダンプトラックよりベルトコンベヤー(専用トンネル)が優位であることを確認した。

同委員会は、佐久間ダムに流入する土砂を適切に除去し流下させるための適切な工法検討を目的に2月に設置。前提条件として、年間の対策土砂量はグラブ浚渫船による浚渫(約25万立方メートル)とバックホウによる陸上からの掘削(約20万立方メートル)の計約45万立方メートルとした。揚砂場は、ダム堤体に近く既設道路からアクセス可能なダム湖左岸側。

その結果、浚渫土砂は

土運搬船で揚砂場に運搬することが現実的で妥当

とした。掘削土砂の揚砂場への運搬方法は複数案を検討した結果、経済性や地域交通への影響を考慮し土運搬船が妥当と判断した。揚砂場からダム直下の河道に整備するストックヤードへの運搬方

法は、延長約1.5キロのトンネルを整備しベルトコンベヤーで運搬する方法がダンプトラックより優位とした。今後、トンネルの施工方法やベルトコンベヤーの運行速度、平面・断面線形などの技

術的課題を精査する。そのほか、堆砂対策量やストックヤードの規模などは今後の水理模型実験や流下置土実験なども踏まえ検討する。次回委員会は17年2月に開催する予定。

この記事・写真は日刊建設工業新聞社の許諾を得て掲載しています。